



KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2025 年 5 月 30 日 Vol. 28

本日は日本の塾・予備校のような教育機関である NAMCOL (Namibian College of Open Learning) について紹介します (写真1)。ここの存在は、初めは同僚の紹介で知りました。というのも [Vol.15](#) のコラムでも少し触れましたが、ナミビアの中高生は留年する者が非常に多く、中退者も少なくありません。また大学へ進学できる者もほんの一握りであるため「中退した者や進学が叶わなかった者はこの国ではどうする



写真1：正面にある看板

の?」と聞いたことがここを知るきっかけでした。それからこの機関に興味をもち、ゆくゆくは配属先の生徒だけでなく、ここで勉強している生徒を実際に見てみたい、できれば力になりたいという自身の言葉を耳にした方々が間に入り、協力くださったことで 2024 年 8 月に訪問見学させていただくことになったという経緯があります。

ここは 1997 年にナミビア議会の法令により設立された政府支援の半自治教育機関で、成人や学校中退者に対してオープン・ディスタンス・ラーニングを通じて教育機会を提供しています (UNESCO Institute for Lifelong Learning より)。授業は、対面だけでなく e ラーニング、テレビ・ラジオ放送、YouTube チャンネル等多様なメディアを活用して行われます。また、一般教養科目 (大学進学に向けた学習支援や学士号・修士号取得のための支援で数学や理科等の授業) だけでなく、職業スキルを習得するための実技科目もプログラムとして提供されています。そのため施設には図書館 (写真2) のほか、実技指導・練習のための実習室も

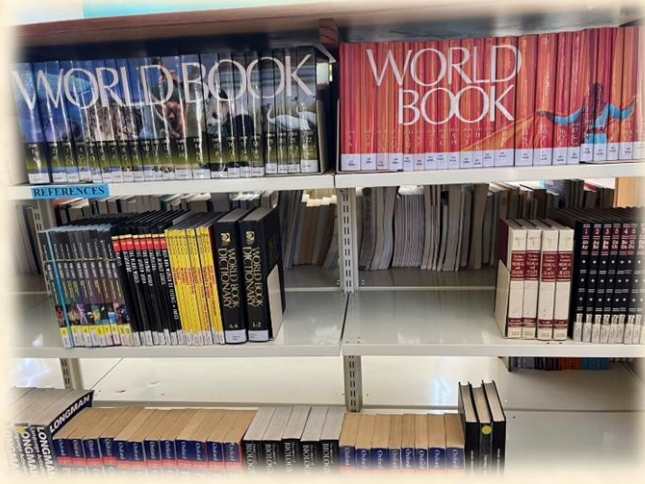
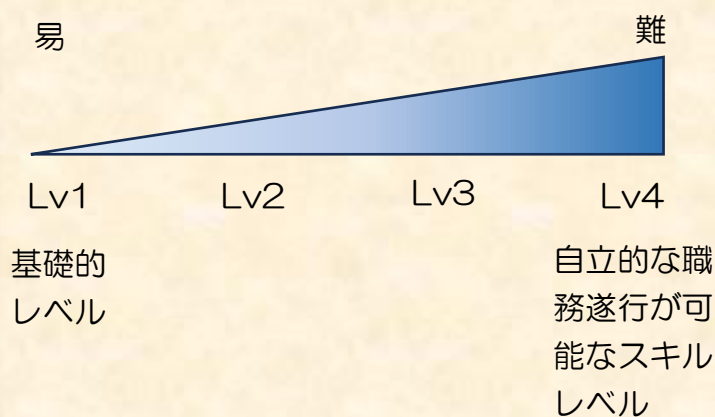


写真2：施設内の図書館



写真3：実習室



完備されています（写真3）。この実技科目では、レベルが1～4の4段階に分けられ、上図のように数字が上がるにつれて難易度と

自身でできることが増えていくような設定になっています。生徒はいずれかのレベルに振り分けられ、出席率や実習レポート、コースによっては最終試験のスコアをもって修了可否の判定が下され、修了と認定されれば次のレベルに進級できる仕組みです。

今回の訪問では、実技科目のコースの中から（i）自動車メカトロニクス、（ii）溶接および金属加工の2つを見学させていただきました。

（i）自動車メカトロニクス



写真4：自動車メカトロニクスの実習室と実習の様子

このコースでは、Lv1 で自動車の基本構造と機能、各種作業の安全手順を学んだ後に本格的な実習に入り、最終的には診断機器を用いて不具合を測定、修理できるようになることを目指します。この校舎では見学時時点で 20 名の受講生が在籍していました。彼らは卒業後に自動車整備工場やディーラー、また製造業などへの就職を目指します。ナミビアでは、人は基本的には車移動であり、タクシーのドライバーからは「車の色々な部品が故障しているから、新しい車を買いたい。日本車の輸出業者や知人を紹介して欲しい。」といったことを頻繁に耳にするため、これは大変需要のある養成課程だと思いました。また写真は外車ですが、多くのナミビア人が日本車に乗っているため、この遠い国でも「ものづくり大国・日本」の英知が参考にされていることは嬉しくなります（*~*）

(ii) 溶接および金属加工



写真5：溶接・金属加工の実習室と実習の様子

ここでは、基本から応用までの溶接および金属加工の技術を学びます。その中で、写真5の左のように受講生が作った物を販売し、売上で金銭的な援助をするという取り組みも行っているそうです。卒業後は溶接工や金属加工技術者、建設業、製造業への就職を目指します。また別の話になりますが、自身の住居に不具合があった時は配属先の生徒が修理に来てくれます。彼らは数学といった座学は好きではないものの、こういった修理や溶接の類は好き・得意といった子が多いため、ここもそういった生徒の需要に沿った養成課程だと思いました。

今回の訪問では主に実技科目を見学させていただきました。ご担当の方には丁寧に説明いただき大変分かりやすかったです。もし機会があれば、次は一般教養科目の受講生、特に数学の様子を見学してみたいです。

AFRICAN SAFARI

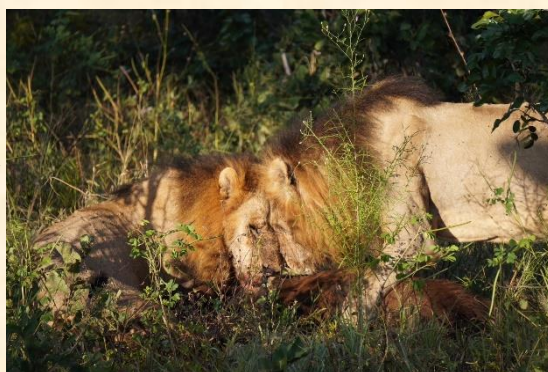
Vol.1



初めてのこのコーナー。何回かに分けてアフリカで出会った「野生」動物たちを紹介します。というのも、今までは無生物のパターンダイナミクスや生命の起源といった科学分野に興味があり、動物そのものにはあまり関心がなかったのですが、野生動物のありのままの姿を目にしてからは、動物園とでは臨場感が全く違ったため興味をもつようになりました。今回はBIG5（アフリカの5大動物）のうちの一種類を紹介します。

《ライオン》

言わずと知れた人気者です。写真は雄(オス)ライオンが次回紹介予定の同じBIG5であるバッファローの子どもを捕食しているシーンで、捕獲～食事のシーンまで見られることは現地の人でもそうそういないそうです。また、通常は雌(メス)のライオンが狩りを行います。この日は雄ライオンがバッファローの群れに二匹で突っ込んでいっていました。その勇猛果敢な姿は、正に“百獣の王”そのものでした。



次回：最後に浴衣を着た日、Heritage Day について紹介します！